

福岡市総合計画審議会
会議録

日時 令和5年11月28日(火) 10時00分

場所 TKPエルガーラホール8階 大ホール

出席者（五十音順、敬称略）

石堂 高大	石丸 修平	稲員 稔夫
猪野 猛	貝和 慧美	笠井 雅広（代理出席 佐伯）
片渕 輝昭	勝山 信吾	金谷 明倫
木村てつあき	櫛山 道太	久保 文一
呉羽 由美	黒瀬 武史	近藤 里美
坂井 猛	清水 邦之	張 彦芳
調 崇史	高木 智代	辰巳 浩
田中たかし	徳永 美紗	中島 徹也
中村 弘峰	西村 悦子	西山 久子
萩島 理	平田 泰彦	福田まもる
藤村真由美	古川 清文	星野 幸代
堀内 徹夫	松浦 賢長	馬奈木俊介
三浦 暢久	森川 春菜	

福岡市総合計画審議会

[令和5年11月28日(火)]

開 会

1 開会

○事務局（高橋） それでは、定刻となりましたので、ただいまより福岡市総合計画審議会を開会いたします。私は事務局の福岡市総務企画局企画調整部長の高橋でございます。本日の進行を務めさせていただきます。どうぞよろしくお願いたします。

本日は報道関係者がいらっしゃいます。会議の円滑な進行のため、撮影の際は議論の妨げとならないよう十分御配慮をお願いいたします。

それではまず、会議の開催に当たりまして、副市長の光山より御挨拶を申し上げます。

○光山副市長 皆様、おはようございます。ただいま御紹介にあずかりました福岡市副市長の光山でございます。総合計画審議会の開催に当たりまして、私から一言御挨拶をさせていただきます。

本日は大変お忙しい中、この福岡市の総合計画審議会にお集まりをいただきまして、まずもって感謝申し上げます。また、皆様方におかれましては、大変御多用中にもかかわらず、この審議会の委員に御就任をいただきまして、重ねて感謝を申し上げます。ありがとうございます。

福岡市の基本計画はおおむね10年ぶりの改定という形になります。まさに、福岡市がこれから進んでいく様々な方向性、様々な計画、そういったものの基本となる重要な計画でございますので、ひとつどうぞよろしくお願いをいたします。

福岡市の現状でございます。

まさに10年ほど前に今の第9次の基本計画を策定させていただきまして、都市の成長と生活の質の向上の好循環をつくり出すという都市経営の基本戦略に基づきまして、様々な取組を着実に進めてまいりました結果、現在、人口はこの10年間でおおむね15万人ほど増加いたしまして、現在164万人となっております。また、当時、将来推計の人口を上げましたけども、現在はそれを6万人も上回っています。この間、市税収入も着実に増加をいたしておりますし、市民の意識調査でも「住みやすい」との回答が96%を超えるなど、福岡市は元気なまち、住みやすいまちという評価をいただいているというふうに思っております。

一方で、コロナ禍を経まして様々な課題が顕在化をしてまいりました。また、社会の価値観も大きく変化をしてきているのではないかと考えています。デジタル化の推進、それから、生活交通の確保、さらには、働き方改革やダイバーシティ、また、ウェルビ

ーイング、こういった新しい価値観、さらには社会の変化、こういったものをしなやかに行政運営に取り入れていく、そして、スピード感を持ってチャレンジをしていく、こういったことが求められていると思っております。

すばらしいまち福岡をさらに発展をさせまして、次の世代に引き継いでいくということが重要でございます。まさに、この福岡市のまちづくりの大きな指針、方向性を示します基本計画を皆様と共に策定をしまいたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いをいたします。

審議会は来年度までの長丁場になりますけれども、忌憚のない御意見をいただきますようお願いを申し上げまして、私の挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

○事務局（高橋） では初めに、お手元の資料の確認をさせていただきます。資料の右肩につけております資料番号を御覧いただき、資料1と資料2、参考資料1から7がおそろいか御確認ください。なお、参考資料3につきましては概要版と全体版をお配りしております。全てお手元でございますでしょうか。不足がございましたら事務局職員までお申し出ください。

なお、本日の資料はお持ち帰りいただいても結構ですし、後日、郵送でお届けすることも可能でございます。詳しくは会議の最後に御案内いたします。

2 委員紹介

○事務局（高橋） 次に、審議会委員の皆様を御紹介させていただきます。お手元の資料1、福岡市総合計画審議会委員名簿を御覧ください。48名の皆様に本日より2年間の任期で御就任いただいております。辞令書をお手元に置かせていただいておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、名簿に記載の五十音順に御紹介させていただきますので、簡単にお一人1分程度で御挨拶をいただければと思います。

まず、九州大学大学院芸術工学研究院教授の朝廣委員につきましては、本日御欠席となっております。

次に、連合福岡・福岡地域協議会議長の石堂委員でございます。

○石堂委員 おはようございます。働く仲間、労働組合でつくる連合から参りました石堂です。6年ほど前からこの審議会に参画をさせていただいております。引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

○事務局（高橋） 福岡地域戦略推進協議会事務局長の石丸委員でございます。

○石丸委員 おはようございます。福岡地域戦略推進協議会の石丸と申します。私は産官学民連携の形でまちづくり、特に福岡都市圏という視座で広域連携、それから、官民連携をまさにリエゾンとしてお支えをしながら、地域の活力を生み出していく、そういったことに取り組ませていただいている者でございます。今回このような形で初めて参画をさせていただきます。何とぞよろしくお願い申し上げます。

○事務局（高橋） 宗像市長の伊豆委員は本日御欠席となっております。
福岡市議会議員の稲員委員でございます。

○稲員委員 おはようございます。市議会議員の稲員稔夫でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

○事務局（高橋） 福岡商工会議所理事・事務局長の猪野委員でございます。

○猪野委員 おはようございます。福岡商工会議所の猪野と申します。福岡市内の商工業者、事業者約1万9,500社を会員に抱えている地域の総合経済団体でございます。よろしくようお願いいたします。

○事務局（高橋） NPO法人ウィッグリング・ジャパン代表理事の上田委員につきましては、本日御欠席となっております。

福岡市議会議員の鬼塚委員につきましては、本日御欠席となっております。

続きまして、グローバル・サステナブル・ツーリズム協議会アジア太平洋地域マネージャーの貝和委員でございます。本日はオンラインで参加いただいております。

○貝和委員 ありがとうございます。皆様、おはようございます。オンラインから参加させていただきますいております。私の属するグローバル・サステナブル・ツーリズム協議会は国際持続可能観光基準を制定、管理している国際非営利団体です。このたびは初めて参加させていただくんですが、福岡市さんの観光・MICE推進プログラムなどでも関わらせていただきまして、いろいろな御縁があって今回初めて参加させていただくことになりました。どうぞよろしくお願いいたします。

○事務局（高橋） 九州地方整備局企画部長の笠井委員でございますが、本日は代理で企

画部事業調整官の佐伯様に御出席いただいています。

○（代）佐伯調整官 代理出席しています企画部の事業調整官をしています佐伯と申します。今現在、国のほうでは国土形成計画を作成しております。7月に閣議決定がございまして、今現在、まさに九州圏の広域地方計画の策定しているところでございます。福岡市さんの計画を参考にしながら、我々のほうもつくっていきたいと思います。また、よろしく願いいたします。

○事務局（高橋） 福岡市自治協議会等7区会長会代表の片渕委員でございます。

○片渕委員 自治協議会の代表として参っております。私ども、地域が安全・安心に暮らせるよう一生懸命頑張っている団体でございます。どうぞよろしく願いいたします。

○事務局（高橋） 福岡市議会議員の勝山委員でございます。

○勝山委員 おはようございます。福岡市議会議員の勝山信吾と申します。この審議会には初めて参加をさせていただきますけれども、2030年のSDGs達成ということもありますので、重要な審議会になろうかと思えます。しっかりと一生懸命頑張ってまいりたいと思っております。よろしく願いします。

○事務局（高橋） 九州経済産業局総務企画部長の金谷委員でございます。

○金谷委員 おはようございます。九州経済産業局総務企画部長をしています金谷と申します。経済産業省は、エネルギーをはじめ、中小企業スタートアップ支援などの幅広い分野において国の施策で支援させていただきますので、市の政策とも連携しながら、いろいろと御意見させていただければと思います。よろしく願いします。

○事務局（高橋） 福岡市議会議員の木村委員でございます。

○木村委員 おはようございます。福岡市議会議員の木村てつあきです。基本構想という福岡市が目指すべき都市像に向かって、それを実現していく、今後、福岡市の10年先の計画を決めるという重要な審議会だと思っております。私も一委員として責任感を持って取り組んでまいりたいと思います。よろしく願いいたします。

○事務局（高橋） RKB毎日放送株式会社総務広報部長の櫛山委員でございます。

○櫛山委員 RKBの櫛山と申します。入社以来、主に報道を中心に担当してまいりましたけれども、現在は総務広報という部署におります。どうぞよろしく申し上げます。

○事務局（高橋） 九州経済連合会経営企画室長の久保委員でございます。

○久保委員 皆様、おはようございます。九州経済連合会の久保と申します。私ども九州経済連合会は、九州、沖縄、山口の約1,000社の企業の皆様、それから、九州、沖縄、山口地区50の大学、高等専門学校の方によって構成されております。私どもも今、中計の見直しがありますし、特にTSMC熊本の半導体を中心に、この経済効果を福岡市はもちろんのこと、九州全域に波及させるにはどうしたらいいかということを中心に検討しております。そのほか、今年初開催、九州のツール・ド・九州というサイクリングイベントによって、九州全体の誘客の促進等々いろんなことをやっております。私も福岡市の住民として福岡市には大いに期待しておりますので、様々なことを一緒に皆様と御検討させていただきたいと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

○事務局（高橋） 福岡市PTA協議会副会長の呉羽委員でございます。

○呉羽委員 おはようございます。福岡市PTA協議会より参りました副会長の呉羽由美と申します。今回より初めて参加させていただきます。よろしく願いいたします。

○事務局（高橋） 九州大学大学院人間環境学研究院教授の黒瀬委員でございます。

○黒瀬委員 九州大学の黒瀬です。都市計画、都市デザインを専門としております。社会が大きく変化する中で計画をどう考えるのか、非常に難しい仕事だなというふうに、今回資料を拝見して改めて思っておりますけれども、10年先を見据えた、一歩先のことを考えた計画づくりをお手伝いできればと思っております。よろしく願いいたします。

○事務局（高橋） 福岡市議会議員の近藤委員でございます。

○近藤委員 皆さん、おはようございます。市議会議員の近藤里美と申します。様々な分野の皆様とこれから議論ができることを本当に楽しみにしております。どうぞよろしく願いいたします。

○事務局（高橋） 九州大学キャンパス計画室教授・副室長の坂井委員でございます。

○坂井委員 坂井でございます。この都市圏に四つの大学キャンパスがありますので、都市と大学のお世話をさせていただいております。福岡市では、都市計画、それから、港湾計画、都市景観のお手伝いをさせていただいております。よろしくお願いいたします。

○事務局（高橋） なお、坂井委員は本日は所用により途中で退出されます。

続きまして、NPO法人福岡市障害者関係団体協議会理事長の清水委員でございます。

○清水委員 おはようございます。NPO法人福岡市障害者関係団体協議会の清水でございます。私は障がい当事者の立場でこの会議に参加させていただいております。よろしくお願いいたします。

○事務局（高橋） 九州大学大学院芸術工学研究院准教授の張委員でございます。

○張委員 おはようございます。張です。私の専門はユニバーサルデザインで、デザインの手法を生かして未来の福岡に貢献できたらと思います。よろしくお願いいたします。

○事務局（高橋） 福岡市議会議員の調委員でございます。

○調委員 おはようございます。福岡市議会の調と申します。今後10年間の福岡市全体の均衡ある発展という観点で議論に参加できたらいいなと思って参りました。どうぞよろしくお願いいたします。

○事務局（高橋） 西南学院大学法学部教授の勢一委員につきましては、本日御欠席となっております。

福岡市農業委員会副会長の高木委員でございます。

○高木委員 皆さん、おはようございます。この会に初めて参加いたします。とても緊張しています。農業のほうも、より一層、皆さんと一緒に発展したいと思います。いろいろな御意見を聞くのが楽しみです。よろしくお願いいたします。

○事務局（高橋） 福岡大学理事・工学部長の辰巳委員でございます。

○辰巳委員 おはようございます。福岡大学の辰巳でございます。私の専門は交通計画、都市計画でございます。総合計画におきましては、私は第9次の基本計画から参加させていただいております。どうぞよろしく願いいたします。

○事務局（高橋） 福岡市議会議員の田中委員でございます。

○田中委員 皆さん、おはようございます。福岡市議会議員の田中たかしと申します。先ほど副市長のほうからこれまでの10年間のお話ありましたけども、今後の10年間はまた違った10年間になるのかなと個人的には思っております。しっかりと皆様と議論させていただいて、先を見据えた計画がつかれるよう努力してまいりたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

○事務局（高橋） Code for Fukuoka代表の徳永委員でございます。

○徳永委員 皆様、おはようございます。私のいるCode for Fukuokaはちょっと聞き慣れない団体名かと思えますけども、シビックテックというテクノロジーを活用して、市民目線で身の回りの困り事を解決するという活動をしております。一応この活動自体は全世界、全国にあるんですけど、私自身は福岡県を対象として活動しておりますので、そういった立場から少しでも今回お役に立てたらと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

○事務局（高橋） 福岡県企画・地域振興部長の中島委員でございます。

○中島委員 皆さん、おはようございます。私は生まれたところだけはちょっと違いますが、保育園から大学まで、そして、職場に入りましても、異動が福岡市内だけと、ずっと福岡市を見続けてまいりました。我がまち福岡の発展こそが、福岡県、そして、九州、我が国全体の発展を支えると強く信じております。このような形で少しでも携われることを非常にうれしく思っております。皆様、どうぞよろしく願いいたします。

○事務局（高橋） 人形師の中村委員でございます。

○中村委員 おはようございます。人形師の中村弘峰です。ふだんは博多人形を作っている中村人形という工房の4代目でありまして、それから、博多祇園山笠の土居流の山車

の人形の製作、あとは、最近ですとパブリックアート、今年の夏の世界水泳福岡大会の屋外装飾も携わらせていただいております。何とぞよろしく願いいたします。

○事務局（高橋） 神戸大学大学院海事科学研究科教授の西村委員でございます。本日はオンラインで御参加いただいております。

○西村委員 神戸大学の西村と申します。どうぞよろしく願いいたします。私の専門は港湾物流になります。どのような形で貢献できるか分かりませんが、勉強させていただきたいと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

○事務局（高橋） 福岡教育大学大学院教育学研究科教授の西山委員でございます。

○西山委員 皆様、こんにちは。私、専門はスクールカウンセリング、それから、教育相談ということで、教職大学院でふだんは現職の院生さんの指導、それからストレートマスターで、これから先生になられる方々の指導に当たっております。この企画に関わること、全ての子ども目線に寄り添うという立場から、いろいろな議論等に参加させていただければと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

○事務局（高橋） 九州大学副理事・教授の萩島委員でございます。

○萩島委員 皆さん、おはようございます。九州大学の萩島と申します。

専門は都市環境や建物の省エネルギー、環境などで、福岡市では、これまで地球温暖化や脱炭素、また、まちづくりなどの委員会などで参加させていただいておりました。この審議会は初めてですが、いろんな分野の皆さんのお話を聞けることを楽しみにしておりますし、それを福岡市の将来のためになるように私も意見を言えればと思っております。よろしく願いいたします。

○事務局（高橋） 株式会社吉開のかまぼこ代表取締役社長の林田委員につきましては、本日御欠席となっております。

福岡市医師会会長の平田委員でございます。本日はオンラインで御参加いただいております。

○平田委員 おはようございます。福岡市医師会会長の平田泰彦でございます。医師会として市民の医療、介護、福祉の面から議論に参加させていただきたいと思っております。どう

ぞよろしく願いいいたします。

○事務局（高橋） 福岡市議会議員の福田委員でございます。

○福田委員 皆さん、おはようございます。市議会議員の福田まもるでございます。平成24年にも委員に就任しまして、久しぶりの参加となります。向こう10年間の動きというのはかなり変わってくると考えておりますし、重責ということで、しっかりとまた頑張っ
てまいりたいと思います。どうぞよろしく願いいいたします。

○事務局（高橋） 福岡市七区男女共同参画協議会代表の藤村委員でございます。

○藤村委員 皆様、おはようございます。福岡市七区男女共同参画協議会から参りました。私も初めての参加になるんですが、事前にいただいた資料を見ますと、やはり発展には問題点もかなりありますので、皆様と一緒に考えていけたらと思います。特にアンケートのパーセンテージが低いものが今後の課題でもあり、そこを改善していけば、より皆さんが住みよいまちになるなど感じております。まちづくり協議会などいろいろ携わってきておりますので、その辺りも皆様と一緒に考えていきたいと思
います。どうぞよろしく願いいいたします。

○事務局（高橋） 福岡市議会議員の古川委員でございます。

○古川委員 おはようございます。福岡市議会議員の古川と申します。第9次の総合計画審議会から引き続き関わらせていただくことになりました。この審議会のメンバーに選んでいただいたことに誇りと喜びと、そして、責任感を持って努めてまいりたいと思
いますので、どうぞよろしく願いいいたします。

○事務局（高橋） 国際連合人間居住計画福岡本部本部長補佐官の星野委員でございます。

○星野委員 星野でございます。皆様、おはようございます。今御紹介いただきました国連ハビタットは、国連システムの中で都市やまちづくりを担う国連機関でございます。自力ではかなわない国や都市に対して、国土計画、地域計画、都市政策などをお手伝いするのが仕事でございます。この審議会においては国際の立場から、また、この審議会で学んだプロセス等をぜひ諸外国の都市にお伝えして、諸外国が憧れる福岡市に貢献
したいと思っております。どうぞよろしく願いいいたします。

○事務局（高橋） 福岡市議会議員の堀内委員でございます。

○堀内委員 皆さん、おはようございます。福岡市議会議員の堀内徹夫でございます。2年間よろしく願いいたします。

○事務局（高橋） 福岡県立大学理事・教授の松浦委員でございます。本日はオンラインで御参加いただいております。

○松浦委員 皆さん、おはようございます。オンラインにて失礼します。松浦賢長と申します。専門は健康科学という学問でして、特に対象は母子、学校、そして、思春期の3本柱です。福岡市ではこども・子育て審議会の座長を仰せつかっております。どうぞ皆さん、よろしく願いいたします。

○事務局（高橋） 株式会社スピングラス・アーキテクト代表取締役の松岡委員につきましては、本日御欠席となっております。

九州大学大学院工学研究院主幹教授・都市研究センター長の馬奈木委員でございます。本日はオンラインで御参加いただいております。

○馬奈木委員 馬奈木です。専門は都市計画です。オンラインなのでチャット機能でコメントをさせていただきますけど、よろしくお願ひします。

以上です。

○事務局（高橋） それでは次に、NPO法人カラフルチェンジラボ代表理事の三浦委員でございます。

○三浦委員 皆様、おはようございます。NPO法人カラフルチェンジラボの代表理事をしております三浦暢久と申します。うちの団体はLGBTを中心に人権啓発をやらせていただいている団体でございます。この会に参加させていただくのは初めてでございます。大変緊張しておりますが、私たちの目線からいろいろお伝えできればいいなと思っております。よろしく願いいたします。

○事務局（高橋） 株式会社日本政策投資銀行九州支店長の水木委員につきましては、本日御欠席となっております。

三井住友海上火災保険株式会社、ブラインドマラソンランナーの道下委員につきましても、本日は御欠席となっております。

オングリットホールディングス株式会社代表取締役の森川委員でございます。

○森川委員 はじめまして。オングリットホールディングス代表の森川と申します。私たちは、橋とかトンネルのインフラ構造物の点検調査を自分たちでしながら、現場でDXするロボットやAIを含めたソフトの開発をしているスタートアップベンチャー企業でございます。どうぞよろしく願いいたします。

○事務局（高橋） 九州大学共創学部学生のレイク委員につきましては、本日は御欠席となっております。

御紹介は以上でございます。改めまして、皆様、どうぞよろしく願いいたします。

3 会長、副会長選任

○事務局（高橋） それでは、議事の初めに審議会の会長と副会長について御選任いただきたいと思っております。

参考資料2、福岡市総合計画審議会規則第7条第2項の規定によりまして、会長及び副会長は委員の中から互選していただくこととなっております。よろしければ事務局から推薦させていただきたいと思っておりますが、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

〔「異議なし」の声あり〕

○事務局（高橋） それでは、事務局の案でございますが、会長につきましては、本市の開発審査会会長や環境審議会温暖化対策部会長などを歴任され、幅広い分野で御見識、御経験をお持ちの萩島委員に、また、副会長につきましては、本市をはじめ様々な自治体の都市計画審議会会長などを歴任され、第9次基本計画にも策定当初から参加いただきました辰巳委員にお願いしてはどうかと思っておりますが、いかがでしょうか。

〔拍手〕

○事務局（高橋） ありがとうございます。それでは、会長は萩島委員、副会長は辰巳委員に就任いただきたいと思っております。萩島委員、辰巳委員は、正面の会長、副会長席にお移りください。よろしく願いいたします。

〔萩島会長、辰巳副会長、正副会長席へ移動〕

○萩島会長 それでは、選任していただきました九州大学の萩島です。改めてよろしく願いいたします。

皆様方からの自己紹介の中でもありましたように、非常に重たい会議、市の中でも重

要な会議だと認識しております。未熟なところもあるかと思いますが精いっぱい務めたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○事務局（高橋） 副会長からも挨拶を一言お願いいたします。

○辰巳副会長 ただいま副会長を仰せつかりました福岡大学の辰巳でございます。副会長という大変重要なお役目をお引受けすることとなりまして、身の引き締まる思いでございます。

先ほど御紹介いただきましたように、私は国や地方自治体の行政委員会にも数多く参加させていただいております。でも今回、この会に参加するに当たりまして、福岡市でこれまでに幾つの委員を務めたのかなというふうに数えてみました。そうしたところ37件の委員を務めていることが分かりました。現在進行中の委員につきましても8件ほどございます。

さて、総合計画ですけども、先ほど副市長からもございましたように、これは地方自治体の行政運営における最上位の計画でございます。したがって、今後福岡市がどのような方向に向かうのかというのは、この総合計画にかかっていると言っても過言ではございません。そうした中で、総合計画というのは、一度つくれば、ずっとそれが続くというものではございません。やはり計画には限界がございます。時代の変化に伴う人々の価値観の変化や環境の変化など、様々に条件が変化いたしますので、その都度見直しをすることが非常に重要になってきます。

そうした中で、このたびこれから10年間の計画を策定するということとなります。その中では、先ほど副市長のお話にもありましたけども、新しい時代のキーワードを盛り込んでいく必要があると思っています。ニューノーマルであったり、SDGs、それから、ウェルビーイング、DXやGXといった新たな視点を計画の中に盛り込んでいくということでございます。

それに加えまして、福岡市は九州のリーダー都市でございますけれども、福岡市だけが独り勝ちをすればいいとは思っておりません。福岡市がこれからよりよい方向に向かうことによって、周辺の地域や自治体にもプラスの効果を生み出していくような政策が望まれていると考えております。

そうした中におきまして、甚だ微力ではございますけれども、皆様方と有意義な議論を交わしながら、これからの福岡市の総合計画がよりよいものになるように精いっぱい尽力してまいり所存でございますので、皆様方におかれましても、ぜひとも御協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

以上、簡単ではございますけども、私の御挨拶とさせていただきます。今後ともどう

ぞよろしく願いいたします。

○事務局（高橋） ありがとうございます。

それでは、ここからは会長に進行をお願いしたいと思います。萩島会長、よろしく願いいたします。

4 議事

○萩島会長 それでは、本日の議題、次期基本計画策定に向けた市民意見募集の実施結果につきまして、事務局から説明をお願いいたします。

○事務局（染井） 総務企画局企画課長の染井と申します。基本計画を担当してございます。どうぞよろしく願いいたします。

それでは、私のほうから座って御説明をさせていただきます。

議題の資料に入ります前に、本日は新たに就任いただいた方も多くいらっしゃいますので、初めに現行の第9次基本計画につきまして、少し御説明をさせていただきます。お手元に水色の冊子でお配りしております、右肩に参考資料3とついた資料があるかと思いますが、そちらを御覧いただければと思います。

まず、1ページをお開きください。

下段に図が記載してございますけれども、福岡市総合計画は、基本構想、基本計画、実施計画の3層構造となっておりまして、今回御審議いただきますのは真ん中の基本計画でございます。中段にそれぞれ説明がございまして、基本計画は、基本構想に掲げる都市像の実現に向けました方向性を、まちづくりの目標や施策として総合的・体系的に示した10年間の長期計画でございまして、平成24年12月に現行の第9次基本計画を策定してございます。

2ページ、3ページをお願いいたします。

こちらには基本計画の上位に当たる基本構想の中で福岡市が長期的に目指す都市像としまして、「自律した市民が支え合い心豊かに生きる都市」など四つの都市像をお示ししています。

4ページをお願いいたします。ここからが基本計画でございます。

まず、都市経営の基本戦略としまして、二つを掲げております。

一つ目は「生活の質の向上と都市の成長の好循環を創り出す」でございます。右側5ページに図をお示ししておりますけれども、福岡市の住みやすさに磨きをかけて、市民生活の質を高め、質の高い生活が人と経済活動と呼び込み、都市の成長を実現させまして、さらに生活の質が高まる、そういった好循環を創っていくという考え方でござい

す。

二つ目は「福岡都市圏全体として発展し、広域的な役割を担う」でございます。4ページの下段に説明がございますけれども、生活圏・経済圏が一体化した福岡都市圏では、様々な課題と一緒に取り組んでまいりました。社会情勢の変化に対応していくためには、都市圏の各市町が連携を一層深めまして、一体的に市民生活の場を提供しますとともに、九州、日本全体の発展という広域的な役割を担っていくという考え方でございます。

また、5ページの下段に枠囲みで「基本姿勢」とありますけれども、その中に太字でございます「人と環境と都市活力の調和がとれたアジアのリーダー都市」を目指すという大きな志で挑戦していくことも示しております。この考え方については、最後の段落にあります。人口や経済規模でいわゆるメガシティを目指すということではございませんで、経済的な成長と安全・安心で質の高い暮らしのバランスがとれたコンパクトで持続可能な都市づくりに取り組んでいくということでございます。

6ページをお願いいたします。

上段に計画の目標年次としまして、2022年度（平成34年度）と記載がございますけれども、2019年度以降、新型コロナウイルス感染症の影響などによりなかなか先行きを見通すことが難しい情勢が続いたこともございまして、目標年次を2024年度まで2年間延長しています。

その下に表に、基本構想と基本計画の関係性をお示ししております。基本構想に先ほど申しました四つの都市像がございまして、それに対応する形で基本計画では八つの分野別の目標を定めております。また、その下にございますが、市民生活や都市活動の場となる都市空間の形成について示しました空間構成目標、それから、区ごとのまちづくりの目標を示したものという形で構成をしております。

また、7ページ以降には、分野別目標ごとの施策につきまして、さらに詳しく記載してございますけれども、本日は時間の都合によりまして説明を割愛させていただきます。

続きまして、参考資料の4、第9次福岡市基本計画の振り返りについて（概要）と表題がついた資料を御覧ください。

こちらは、去る7月31日に開催いたしました前回の総合計画審議会の資料でございます。第9次基本計画の10年間の取組を施策分野ごとに整理しまして、振り返りを行ったものでございます。各分野ごとの具体的な説明は割愛させていただきますけれども、その審議会の中で委員の皆様からいただきました御意見、また、御意見に対する対応の方向性などをまとめてございますので、そちらを少し御紹介させていただきたいと思っております。

参考資料の7を御覧ください。資料が飛び飛びで申し訳ございません。A4の横判の資料でございます。一部の御紹介にはなりますけれども、まず、こちらの1ページを御

覧ください。

その二つ目、三つ目のあたりですけれども、次期基本計画策定への市民参加に関する御意見をいただいております、まさに本日この後御説明をいたしますように、幅広い市民の皆様からの意見募集に取り組んできました。

また、2ページを御覧ください。ここでは、まず一つ目、二つ目の部分、市民の幸福感などに関する御意見、また、三つ目以降では、先ほど申しました福岡市の都市経営の基本戦略であります、都市の成長、生活の質の向上の好循環、そういった視点を踏まえながら次期基本計画の策定に取り組んでいく必要があるなどの御意見をいただいております。

また、次の3ページでは、人口動態、あるいは、価値観の多様化などの社会情勢の様々な変化に対応していくことについての御意見、続きまして、4ページのような、課題認識に関する御意見、広域的な福岡市の役割に関するような御意見もいただいております。

また、駆け足で恐縮ですが、5ページには、地域コミュニティに関する御意見やモラル・マナーに関する御意見、6ページにおきましては、若者への支援や環境問題に関する御意見などもいただいております。

そして最後になりますけれども、7ページから8ページにかけては、福岡市の産業振興に関する御意見ですとか、観光MICEに関する御意見などをいただいております。

また後ほど御参照いただければと思います。

それでは、ここから議題の御説明に入らせていただきます。

資料の2、次期基本計画策定に向けた市民意見募集「みんなでつくる福岡市の将来計画プロジェクト」の実施結果についてと表題がついた資料を御覧ください。

まず、1ページ、1番の趣旨でございます。

今回のプロジェクトは、第9次福岡市基本計画が来年、令和6年度末をもちまして計画期間の満了を迎えますことから、次期計画の策定に向けた検討を進めるに当たりまして、次代を担う子どもたちや若者をはじめ、幅広い市民等から御意見を募集するものでございます。

2、次期計画の策定スケジュールでございます。

今年度左側のように大きく三つの取組を進めておりまして、上段の現計画の振り返りとして、こちらは先ほど簡単に御説明させていただきましたけれども、7月に総合計画審議会への御報告をさせていただいたところでございます。

また、中段が今回御報告をさせていただきます市民意見の募集でございます。

そして、下段の素案の検討でございますけれども、本日の審議会後、年度内を目標に

素案を取りまとめまして、来年の4月以降のできるだけ早い時期に審議会へ諮問をさせていただきまして、審議・答申を経て、来年の12月に市議会の議決を経て策定し、再来年、令和7年度から次期計画の開始を予定しているところでございます。

3、市民意見募集の実施期間でございます。

本年4月25日からスタートいたしまして10月末までの約半年間、御意見を受け付けてまいりました。なお、ワークショップ等につきましては、引き続き今月末まで実施をしているところでございます。

4の周知方法でございます。

市政だよりやホームページへの記事掲載、LINE、YouTube、Facebook、XなどSNSからの情報発信、7区の自治協議会長会を通しまして各地域への周知、公共施設や駅・学校・商業施設へのポスター掲示などによりまして、幅広く周知を図ってきたところでございます。

2ページをお願いいたします。5、実施結果でございます。記載のとおり、大きく八つの取組を実施してまいりました。次ページ以降で順に御説明をしてまいります。

3ページを御覧ください。（1）オンラインアンケートでございます。

12年前、現計画の策定に関する市民意見募集を行った際は、紙を郵送してアンケートを実施しておりましたが、その後のスマートフォンの急速な普及なども踏まえまして、今回は、いつでも誰でも回答いただけるという形で、オンラインアンケートを実施してございます。

①アンケート内容でございます。

まず初めに「あなたにとっての幸せな未来のために特に大切なこと」としまして、記載の15項目から該当するものを全て選択していただきまして、次に、それらの項目について、現在の満足度を4段階で御回答いただいております。また最後に、福岡市や御自身の将来についてということで自由記述での御意見をいただいております。

②の回答件数は全体で8,242件となっております。こちらは12年前と比べまして大幅に増加をしているところです。また、年代別、居住区別の内訳も載せておりますけれども、御覧のとおり幅広い世代から御回答をいただけたと考えてございます。

4ページをお願いいたします。回答結果でございますけれども、まず「あなたにとっての幸せな未来のために特に大切なこと」、こちらで全年代合わせて最も選択が多かったのは、「健康的な生活ができること」となっておりまして、以下、記載のとおりとなっております。

また、5ページを御覧ください。こちらには、今の左のページの分を年代別に再度整理して載せてございます。表の下に、年代による特徴を記載しておりますけれども、まず、「健康的な生活ができること」や「災害や犯罪などの不安が少ないこと」、こうい

ったところは全ての年代で選択割合が高い傾向がございました。また、次のオレンジで色をつけておりますけれども、「家庭や学校・職場以外にも居場所があること」、こちらは18歳未満で高い傾向がございました。次の黄色の「出産や子育てがしやすいこと」、こちらは18歳から30代にかけてかなり高い傾向となっております。その次の水色の「交通機関が便利なこと」につきましては、18歳未満あるいは70歳以上が高い傾向となっております。最後に緑でお示ししておりますけれども、「身近に自然があること」につきましては、年代が上がるほど上位に上がっていく傾向がございました。

6 ページを御覧ください。こちらは、今御説明しました大切なこととして選択いただいた項目についての満足度の集計結果でございます。身近に自然があること、配偶者・パートナーと生活できることなどでは高い満足度となっております一方で、下のほうを見ていただきますと、出産・子育てがしやすいことですか、家族の介護が安心なことといったところは、まだ満足度が十分ではないという傾向となっております。また、表の下にオと書いておりますけれども、こちらには特に大切なこととして自由記述で回答いただいたものを一部抜粋して掲載してございます。

7 ページをお願いいたします。ここからは、福岡市や御自身の未来についての自由記述でいただいた御意見です。かなり長文のものも含めて延べ3,315件もの御意見をいただいております。分野ごとに整理して主な御意見を掲載させていただいております。

まず最初のユニバーサルデザイン、健康、福祉の分野ですけれども、こちらは504件御意見をいただいております。分類にありますけれども、多様性、バリアフリーの推進などに関する御意見、女性の活躍や女性の安心などに関する御意見、高齢者や障がい者に関する御意見、こういったところをいただいております。

下の表ですけれども、子ども、教育の分野におきましては652件の御意見をいただいております。子育ての経済的支援や仕事と育児の両立に関する御意見、子どもの遊び場づくりや将来に関する御意見、また、教育環境や居場所づくりに関する御意見などがございました。

8 ページをお願いいたします。文化芸術、スポーツの分野では、160件の御意見をいただきまして、音楽やアート、スポーツを楽しむ環境などについての御意見がございました。

その次の地域コミュニティの分野では86件の御意見をいただきまして、助け合いやつながり、また、公民館の活用などに関する御意見をいただいております。

次の防災、都市基盤の分野では161件の御意見をいただきまして、防災・危機管理に関する御意見、あるいは、道路整備や住環境などに関する御意見などをいただいております。

次の防犯、モラル・マナーの分野には155件の御意見をいただきました。犯罪や事故

防止、自転車やたばこのマナーに関する御意見などがございました。

9ページを御覧ください。環境、自然の分野では158件の御意見をいただきまして、エネルギーやごみの問題、緑や公園に関する御意見などがございました。

その次の交通の分野では445件の御意見をいただいております。総論としましては、交通機関の充実や料金の決済、あるいは、渋滞対策などの御意見をいただいております。また、各論として具体的なエリアの交通整備に関する御意見も多数いただいております。

10ページを御覧ください。経済振興、都心部の分野でございます。こちらでは299件御意見をいただいております。企業誘致や雇用の創出、働き方に関する御意見、観光やレジャー施設などに関する御意見、農林水産業に関する御意見、都心部のまちづくりに関する御意見などがございました。

次に、国際の分野におきましては59件の御意見をいただいております。福岡市の国際化や共生に関する御意見などがございました。

最後に、その他としまして636件の御意見ございまして、こちらでは、福岡らしいまちづくり、あるいは、広域連携に関する御意見、また、デジタル化や行財政運営に関する御意見など多様な御意見をいただいております。

続きまして、11ページをお願いいたします。(2) メールや郵送など一人ひとりの実情に応じた手法によりまして、143件の御意見をいただいております。意見の件数の内訳ですとか分類につきましては記載のとおりでございます。

12ページを御覧ください。(3) でございます。世界水泳の期間中の来街者に、福岡市について良かった点と物足りなかつた点ということで、アンケートを実施しております。多様な国籍の方々から503件の回答をいただいております。

回答結果ですけれども、良かった点としましては、食事や人の親切さなどは7割を超える回答となっております。一方で物足りなかつた点としましては、多言語表示が約20%、キャッシュレス決済やWI-FI環境に関するものが約10%などとなっております。

13ページをお願いいたします。(4) ワークショップでございます。高校、大学、市民サークル、企業や団体など、多様なコミュニティに市職員が参加いたしまして、参加者自身や福岡市の未来について一緒に考え、語り合うワークショップを開催しております。当日の基本的な流れとしましては、まず、市職員のほうから、福岡市、基本計画の概要、また、市の取組などを御説明しまして、その後、参加者自身や福岡市の未来を考えていただく個人ワーク、グループワークという形で行いまして、最後に皆様の描く将来像などを発表していただくという進め方で実施しております。

開催状況は表に記載のとおりでございます。これは11月16日時点の集計ですけれども、40回、1,198人の方に御参加をいただいております。

14ページをお願いいたします。こちらにはワークショップでいただいた御意見の分類

で、途中経過でございますけれども記載しております。

また、15ページにはワークショップ当日の様子を一部掲載させていただいております。今回特徴として、かなり若い世代の方の御参加が多かったと感じているところです。

16ページをお願いいたします。（5）でございます。「未来のまちづくりプロジェクト in FUKUOKA」と題しまして、小学4年生から6年生の18人に、マイクラフトというゲームを活用しまして、住みたいまちの姿を表現してもらっています。下段のほうに完成した作品の一部を掲載させていただいております。

17ページを御覧ください。（6）小中学校での意見募集でございます。市内の小中学生約12万人を対象としまして、1人1台のタブレット端末を活用したアンケートを実施いたしまして、その後、特に代表で実行委員になってくれた子どもたちが取りまとめて、11月2日に開催されました「福岡こども未来サミット」で「福岡市の将来像」を発表してもらいました。

アンケートは3問でございます、1問目は、その下に記載しております13項目につきまして、それぞれどのように思っているかを選択してもらっています。上から3番目の買物のしやすさですとか、4番目の新鮮でおいしい食べ物などではかなり肯定的な回答が多かった一方で、下から3番目の犯罪の少なさなどは、ほかの項目に比べると少し肯定的な回答が少ない傾向が出てございます。

18ページをお願いいたします。2問目は、福岡市のまちづくりで大切と思うものを選択してもらっています。御覧いただきますとおり、自然を大切に取る取組を進めるという意見が突出して多いという印象でございます。それ以降、ごみの問題、安全な道路に関する問題、また、働く場所、雇用に関する問題などについて、回答が多くなってございます。

19ページをお願いいたします。3問目としまして、まちづくりに関する意見を自由記述してもらっています。ここでもやはり環境や生活安全などに関する意見が多く挙がっておりまして、小中学生の関心が高いことがうかがえる結果となっております。

20ページをお願いいたします。11月2日に開催されました「福岡こども未来サミット」でございます。実行委員会の子どもたちが先ほどの小中学生のアンケート結果を取りまとめた上で、食、交通、防犯など、10の分野について取組のアイデアを発表してくれています。また、当日の会場は各小中学校とオンラインでつながっておりまして、各グループの発表後、20ページ中段にA、B、C、Dと四つに分類をしておりまして、その中で特に関心が高いところをアンケートをとったところ、いずれも高い関心ございましたけれども、その中でも特にAの「自然にやさしく魅力あふれるまち」というのが最も高い結果でございました。

22ページをお願いいたします。（7）でございます。市政を取り巻く様々な分野の有

識者20人の皆様に御協力をいただきまして、福岡市の現在と将来についてインタビューを実施させていただきました。こちらは現在、記事を作成中でございますので、また、取りまとめ次第、皆様にも御報告させていただきたいと考えております。

最後になります。23ページをお願いいたします。(8)民間主導の取組でございます。福岡都市圏の持続的な成長を図ることを目的としまして、産官学民一体となって組織しております福岡地域戦略推進協議会が主体となりまして、市内のまちづくり団体や経済団体などと連携してイベントやヒアリングなどを実施され、その結果を踏まえまして市への提言をいただいております。

取組の実施内容は記載のとおりでございます。下段の提言の中では、「都市経営の基本戦略」のアップデートですとか、四つの具体的な「目指す姿」「施策の方向性」などをお示しいただいたところでは。

私からの説明は以上でございます。御審議のほどよろしくをお願いいたします。

○萩島会長 ありがとうございます。非常に多彩な手法でいろんな方々から意見聴取されたことが分かりました。

これから、委員の皆様からの御意見や質問などをいただきたいと思います。既に膨大なコメントがあつて、それを抽出したものが紹介されておりますけれども、この視点が抜けているのではないかとか、これも考えてほしいとか、皆さんにいろいろお考えがあるかと思っておりますので、それをお聞かせいただければと思います。たくさんの委員の皆さんがいらっしゃいますし、時間も限りがありますので、簡潔に御発言いただければと思います。

御意見のある方は挙手いただければと思います。いかがでしょうか。

○委員 4分半ぐらいいただきます。すいません。これからよろしくをお願いいたします。

「みんなでつくる福岡市の将来計画プロジェクト」については、今報告ありましたように、多くの市民の皆さんの声がバランスよく集約されていると思っております。そこでマスタープラン作成していく上で、これまでの10年をどう見て、今後の10年どうするかという基本点として、私の意見を述べさせていただきたいと思っております。

これまでの10年を振り返って、福岡市民にとって、また、地域経済にとって、福岡市はどうだったかという点です。

自民党政権自身も言っているように、日本経済が長年続いてきた経済の停滞を転換しなければならぬ、これは立場を超えて共通する課題ではないかと思っております。福岡市でも地域経済でもそれを望まれていると、アンケートを見て確信したところでは。

現実に、市民生活と地域経済は、日本経済の衰退によって暮らしの困難が続いている

ところに物価高騰が今襲いかかっておりまして、深刻な事態となってきたというのが、市民生活ではないか、地域経済ではないかと思えます。

この30年、労働者の賃金がほとんど上がらず、社会保障や教育への公的支出は、先進国と比べても極めて低い水準のまま推移してきました。一方で、食料自給率は38%、エネルギー自給率も10%と先進国で最低水準であり、暮らしと経済の基盤である食料とエネルギーを外国に頼っていることで、国際情勢の危機に際して脆弱な経済になってしまっている状況が福岡市でも見えます。

市民の暮らしを守るために、物価高騰対策と一体に、長期にわたって暮らしと経済を悪化させてきた構造的な問題を解決する必要がある、それがマスタープランで打ち出さなければいけない打開の方向ではないかなと思っています。

本市はこの10年間、都市の成長を生活の質の向上に結びつけるといって、大型開発や大型イベントを進めてきました。しかし、市民の生活は、良くなるどころか、コロナや物価高騰の影響を受けてさらに厳しくなっており、市内中小企業や小規模事業者の経営が悪化し続け、倒産、廃業が相次いでいます。また、加齢性難聴の補聴器購入補助や学校給食費無償化など、市民が社会保障や教育などで切実な願いを訴えていますけど、それはかなえられておらず、学校施設の改修や抜本的な水害対策など必要な施策にお金を使わないという市政運営がなされていることが市民の不満となっています。このことは、市民アンケートで、介護、出産、子育て、防災などが満足できていないという数字が出てきていることからもうかがえます。天神ビッグバン、ウォーターフロント再整備などの大型開発、大型イベント優先の税金の使い方を改めて、市民の暮らしや市内中小業者の営業を応援し、地域循環型経済へ転換することが求められていると私は思います。

そこで、今後10年をどうすればいいのか。冒頭に副市長から新しい価値観の必要性が語られましたけど、私は、気候危機打開、そして、ジェンダー平等、この二つの基本方向を大きな柱立ての一つにしていかなければならないと思います。

気候危機打開については、福岡市は国よりも10年早く温室効果ガス排出実質ゼロの達成を掲げており、そのためには政治経済など社会全体にわたる見直しが必要です。小中学生のアンケートでも環境に関心が高いという結果が出てきています。また、FDCさんが集められている意見の中にも、ネット上で眺めてみますと、新しい産業としてのカーボンニュートラルへの強い思いがありました。

もう一つはジェンダー平等です。日本のジェンダーギャップ指数は125位ですから、本市でもあらゆる施策の中心に位置づけられるジェンダー主流化、これが求められていると思います。

今言いました、気候危機打開、ジェンダー平等、これらの視点を本市のマスタープランの大きな柱にすることは、私の意見と今回寄せられた市民の声とが共鳴しているとい

う感想を持ちました。皆さんと御一緒に、後世の福岡市民から、あのマスタープランから市民生活と地域経済が変わったと言われるようなものをつくっていただければと思っています。

以上です。ありがとうございました。

○萩島会長 ありがとうございました。環境とジェンダー平等が重要だという御指摘でした。ありがとうございます。

ほかの皆様方から、アンケート結果につきまして、コメントや御意見、質問などいかがでしょうか。

○委員 多岐にわたる案件の内容でございましたけれども、その中で、出産、子育て、家族の介護というところが非常に課題ということが6ページにも載ってありました。国のほうも、いわゆる認知症基本法が成立して、1～2年以内施行するということでもありますので、その辺りの国の方向性というか、しっかりつかんでいただきながら、介護、また、高齢者の施策を進めていただきたいと思います。と思っています。

また、この資料の中でも、振り返りについてということがありましたけれども、今回は、この振り返りについては触れずに、アンケートのほうのお話ということでよろしゅうございますか。

○事務局（染井） 振り返りのほうも、もし何かございましたら、御発言いただければと思います。

○委員 分かりました。そしたら手短かに。

概要のほうで、1ページのユニバーサルデザインということもありましたけれども、バリアフリーのまちづくりについて、重点整備地区というのが中心駅とかから何キロとかあったと思いますけれども、その辺りの拡充も今後していただきたいと思います。と思っています。

また、介護職、ここには保育園、保育士のことも書いてありましたけれども、介護職に対する支援の充実もしっかりとしていただきたいと思います。と思っています。

あと、4ページの下のほうにあります農福連携ということで、福岡市はなかなか農福連携の進みが遅いと感じておりますので、障がい者だけではなくて、先ほどもお話にありましたけれども、認知症の高齢者の方々への農福連携というのも非常に大切な目線ではないかと思っています。その辺りをお願いしたいと思います。

あとは、アンケート内容の18ページ、小学校3年から中学校3年生、9歳から15歳の方々を対象なので、この先10年と考えれば、この子たちは19歳から25歳ということでも

ありますので、特にこの辺りの御意見を尊重していただければと思っております。

以上です。

○萩島会長 ありがとうございます。

続きまして、では、こちらから。

○委員 基本計画を策定していくに当たってのアプローチをお尋ねしたいんですが、目指すべき都市像である基本構想は第9次のときに掲げられている基本構想のままという理解でよろしいでしょうか。

○事務局（染井） 事務局でございます。

はい、基本構想につきましてはお見込みのとおりでございます。

○委員 私はこの基本構想、目指すべき都市像というのを読み込ませていただいたんですけども、素晴らしい都市像になっていると思いますし、これが実現すれば、もっともっと福岡というのは皆様が憧れる都市になるのではないかと考えています。今回も市民の皆さん、いろんな団体からアンケートでたくさんの意見をヒアリングしていただいて、多くの社会課題だったりが見えてきたところだと思いますが、こういうボトムアップのアプローチと同時に、基本計画を策定していくに当たって、一体、どのくらいの期間をかけて、この基本構想、都市像を実現していこうとするのか、また、その実現のために戦略的にどのようなことに重点を置いてアプローチしていくのか、こういったことを考えることも大事ではないかと考えております。そういうものがあつた上で、直近のステップとして、次の基本計画の10年でどこまでのことを成し遂げようとするのか、また、それに対してどのような意味のある指標を達成しようとするのか、こういったアプローチも必要ではないかなと考えております。ぜひともしっかりとそこの大事な部分を考えて上で素案を策定していただければと思っております。

以上です。

○萩島会長 事務局から何かコメントがありますか、今のことについて。

○事務局（染井） 基本構想につきましては目標年次の定めはございませんけれども、おっしゃるように、実現に向けてどういうプロセスでというところを、基本計画をつくっていく中でもしっかりと考えていきたいと思っております。

以上でございます。

○萩島会長 ありがとうございます。

それでは、ほかにどなたか御発言がございますか。では、そちら。

○委員 ありがとうございます。

この回答結果を拝見して、4ページと5ページの「あなたにとっての幸せな未来のために特に大切なこと」で、年代による特徴は書いていただいているとお리だと思えますけれども、住む場所というところに注目してみると、18歳から29歳は3位とか、30代でも6位とか、実は意外と交通の利便性と同じぐらい皆さんが大切にされていることに拝見して気づきました。

これと併せて考えなければいけないのは、福岡市自体は成長していて、それはいいことだと思いますが、その先に、住みたい場所に住めなくなって、例えば市外に住宅を求めるとか、そういう意味では、福岡の本来の良さであった住みやすさみたいなものが今後損なわれてしまうリスクもあると思っております。

それと併せて考えたのが、7ページと8ページに皆さんの自由記述意見が書いてあって、まず、自由記述って相当頑張らないと書かないと思うので、ここに書いてある652件の子ども、教育というのは、本当に市民の皆さんのどうしても書きたいという思いが出ているんだなと思って見ていましたが、子ども、教育のところ、それから、交通のところを拝見していると、実は先ほどの住む場所と関係しているところもあると思っております。例えば、安心して子育てと仕事が両立できる環境というのは、住む場所がきちんと確保されていれば実現するかもしれませんし、今住んでいるところの交通利便性が高くなればそれが実現するかもしれません。非常に市民の方の移動というものと、アフォーダビリティというか、手の届く価格でそれが実現できることが大切なんだなと改めて思った次第です。

ですので、こういうふうに分類していくとどんどん細くなってしまいうんですけども、市民の方が求めている住みやすさをどうやって実現していくのかを、次の10年でも大切にしていただければと思っております。

以上です。

○萩島会長 ありがとうございます。

住む環境という漠然としたことを掘り下げると、物理的な側面とサービスなどいろいろあるということで、今後、また議論が必要かと思えます。ありがとうございます。

それでは、次をどうぞお願いいたします。

○委員 都市景観のお手伝いをしておりまして、同じ冊子の18ページ、19ページを見ますと、子どもたちは、「みどり」に反応するんですね。「みどり」を大事にしたいと思うという、これは地球環境に外せないお話ですし、それから、カーボンニュートラル、そんなことにつながってくる大事なお話で、皆さん意識の中にあるんだなと思った次第ですが、街路の整備といったところでもやっぱり「みどり」って出てきます。そういった自然の共生と、それから、市街地のつくり方にも、街路をどうやって、やっぱりみんなが歩きやすく、それから、夏も少し日陰がある、そういった場所があると、この「みどり」というのが生きてくる。福岡は自然が豊かなところですし、まちなかでもそういったつくり方というのは大事だなと思った次第です。

それから、先ほどのアンケートの7ページ、8ページ辺りでは、7ページのユニバーサルデザインについて500件書いておられるということで、やっぱりつくり上げていくとき、今、天神のまちなかを建設中ですけども、やはりいろんな方が行き来できるような使いやすいまち、最近インクルーシブという言い方をしていますが、いろんな方が使えるように進化していくまちをとということをやると、支え合うまちになっていくのではないかと思った次第です。

先ほどの交通のところでは、行きたいところへ行き着く、あるいは、都市圏との関係も大事だと思います。お隣の都市と行ったり来たりということを頻繁にやられていますので、そういったところとのつながりはこれから大事ではないかと思う次第です。

以上です。

○萩島会長 ありがとうございます。

ここで、チャットでコメントをいただいています。移動中でお話ができないということなんですが、事務局のほうから読んでいただいてもいいですか。可能ですか。

○事務局 事務局でございます。では代読をさせていただきます。

「移動中で話せないため、チャットにて、下記、今回の内容を踏まえたお願いです。今後の健康への期待、自然への満足度の高さなど、個々の満足度など、既にお話がありました。大事な点は、インフラ、健康と教育を含めた人的資本、気候変動対策などを含めた自然資本の充実でした。これを活かして、今の世代、将来の世代のウェルビーイングを高める政策を進めることができるかです。個々のKPIを並べるのみでなく、それらが全体のウェルビーイングに繋がるか、把握すべきと思います。我々も協力しますので、個々のプロジェクトの社会インパクトを国連の新国富指標にて把握していけば良いと思います。」

以上でございます。

○萩島会長 ありがとうございます。

こうした様々な政策の多面的な評価を分かりやすくすることについて大変研究の蓄積
がおりかと思しますので、ぜひ協力していただければありがたく思います。

ほかに、この会場から。はい、お願いいたします。

○委員 子どもさんのアンケートに、一番に自然を大切に取る取組を進めるというのが第
1位で、私は未来が明るいなってすごく思ったんですけども、そもそも、皆さんが思
っていらっしゃる自然って何なんでしょうか。美しい農村風景だったり、きれいな山々
というのは、絶対人が手を入れています。今、耕作放棄地がすごく多いです。特に志賀
島、脇山、北崎は本当に目も当てられないぐらいひどい状態で、これを自然というのか。
自然を大切にするんだったら、まちが都市計画できれいになるように、そういうところ
も含めて自然というか、山林や農地も手を入れてきれいにしていただきたいと思ってい
ます。すると、すごく景観が良くなって、皆さんが自然っていいなともっと思ってくれ
るようになると思います。

私は今、西区姪浜で営農しているんですけども、周りは全てビルだらけです。その
中で、うちの田んぼは温度がちょっと違うんですね。だから、都市の中に畑があっても
いいのではないかと思います。何か泥が入ったとか、虫がとか言われるんですけども、
水田は夏に水をためるので、温暖化対策には非常に有効な手段だと思います。そうい
うのも含めて皆さんと一緒に考えていけたらと思いますし、御意見をぜひお聞かせいた
だきたいと思えます。ありがとうございます。

○萩島会長 ありがとうございます。自然という言葉の解像度を非常に上げた発言をして
いただいたと思えます。ありがとうございます。

ほかに、皆様から。はい、お願いいたします。

○委員 さっき何名かの先生方が、アンケートの結果について、一般市民の結果と子ども
たちの結果が違うというところに着目しておられて、私もそれがとても興味深かったで
す。

私たちはこれから未来の福岡をつくっていきます。大きい変化の中で福岡の未来って
何なのかというところがすごく興味深くて、私たちが未来を議論しながら、自分の中で
福岡の未来はどんなものなのか、どんな技術がこれから出てくるか、「みどり」が減っ
ているか増えているか、経済はどうなっているかという、そもそも私たちの中に未来像
があって、その未来のためにそれぞれの立場で何ができるかということになると思っ

います。その場合は、マイナスな状態を守る未来づくりなのか、それとも、そこから攻めるの未来づくりかというところが正直私は分からなくて、今後、そのようなところをどうすべきか、それによって方針が全然違ってくると思っています。

そこを、すいません、いきなり副市長に質問してもいいですか。今後、私たちの未来づくりの中で、福岡市って、守る未来をつくるか、それとも攻める未来をつくるかというところで、何か今までの議論の中で少し参考になるものがもしありましたら、教えていただきたいなと思っています。

すいません、いきなり質問して。最初話した10年ぶりの福岡市の構想からの満足度や価値観の変化のようなどころにとっても興味がありまして、今後、新たなマスタープランつくる中で、何かもう少しそのような……。もちろん、四つの構想は変わらないけれども、ただ、ここからさらに何か意見があったらいただきたいなというところがありまして。

○萩島会長 これはなかなか根本的な……。多分ゼロイチというバイナリーではないと思いますが、どうでしょうかね。事務局に振ってもいいでしょうか。

○光山副市長 まちづくり、それから、自然のお話の両方ですね。次の未来に向けて、きちっと創造していくまちがあるということも大事でありますけども、一方で守っていくべきもの、変わらないもの、こういったものをいかに大事にしていくか、その価値観をどれだけ我々が共有できるか、そこがすごく大事だと思っています。簡単に言うと、両方の価値観を共有して未来のまちをつくっていくことが大事だと私は思っています。

例えば天神のまちづくりで、今、天神ビッグバンが起こっています。新しい建て替えが精力的に行われていますけども、一方で、赤レンガ文化館みたいな100年以上前から歴史をきちっと語るすばらしい建物があります。それをどう大事に守っていくか。さらに、周辺の自然のつくり方もそうだと思いますので、まさに都市と自然の両面からしっかり将来に向けてつくっていく、守っていくものをしっかり守っていく、その両面で、福岡の未来をしっかりつくっていくことが重要だと思います。

根本的な非常に大事なお話をいただきましたので、今回のマスタープランの中で基本に据えながら御議論いただければと思っています。

私からは以上です。

○萩島会長 ありがとうございます。

じゃあ、先にこちらからお願いいたします。

○委員 すいません。どう表現していいかわからないまま手を挙げてしまっているんですが、いろいろ今日の資料を拝見させていただく中で、それぞれの施策、皆さんの御意見ってすばらしいなと思いながら聞いていました。そして、聞きながら何となく思っていたのが、アンケート調査もそうですし、これから進めていただくことについても、ぜひダイバーシティという観点、ジェンダーギャップの話、バイアスの話ですとか、どこにマイノリティーがいるのかとか、その辺の様々な観点をしっかりと入れていただきながら施策をつくっていくように考えていただければ、うれしいです。

実際に住む場所の話、交通の利便性の話、第3の場所、居場所だったり、ここにあるアンケートの回答内容というところに関していろんな数字が出ておりますが、それに関しても、その中にLGBTの当事者がいるんだとか、障がいがある方たちが隠れているとか、見えないマイノリティーの方々がたくさんいるということも頭の片隅に置きながらいろんなものを見ていただく、分析していただく、そして、アンケートを発信していただくと、実はもう少し回答が変わってくるのではないかと思ったり、アンケートの質問の仕方、発信の仕方だったり、回収した後の分析の仕方、データの収集の仕方みたいなものも変わってくるのではないかと思った次第でございます。

ぜひその辺の観点もこれから一緒に考えていただければ、うれしいと思います。よろしく願いいたします。

○萩島会長 ありがとうございます。

アンケートは何千件もサンプルを集めていますが、それから漏れがちなところこそこの審議会の価値があると思いますので。ありがとうございます。

それでは、はい、お願いいたします。

○委員 このアンケートを拝見した感想みたいなことなんですけれども、小学3年生から中学3年生対象の18ページのアンケートの一番下のほうに位置している「ほかの都市や外国の地域などとの交流をさかんにする」ことを大切にしたいと思う人の割合が一番少ないと。そして、基本構想にある「活力と存在感に満ちたアジアの拠点都市」であるとか、「海に育まれた歴史と文化の魅力が人をひきつける都市」とか、その辺が大きく目標に掲げられていると思いますけれども、12ページの外国からの来訪者のアンケートの良かった点の下のほうにも、「歴史文化」とか「おもてなし環境」とかというのが低い数字で推移しています。アジアのリーダー都市に、という福岡市の標語がいろんな掲示板等に掲げられていますが、子どもたちないし大人も含めて、心からオープンなまちをつくらうとしているとか、言語の教育とかも含めて、その辺のギャップがこの数字に出ているのかもなというふうに拝見しましたので、そういうところも視点に入れ

て考えていけたらいいのかと思います。

○萩島会長 ありがとうございます。

国際化ということで、このアンケートは日本語でとられていますし、どうしてもサンプルに偏りがあるというか、全体を代表していない可能性もあると思います。重要な御指摘だと思います。ありがとうございます。

それでは、はい、お願いいたします。

○委員 すいません。

まず、当局にお伺いしたいんですけども、大前提として、こういう基本計画に市民の意見を取り入れる姿勢は大変いいことだと思いますし、ぜひ積極的にやっていただきたいと思いますけれども、まず、今の第9次の計画についても市民参加を取り入れてつくっていらっしゃったと思います。その第9次と第10次にはどういう手法の違いがあるのかを一つお伺いしたいのと、サンプル数が、例えば3ページにあるように、回答件数8,400件のうち18歳未満が83件、40代は2,100件と随分偏っているようですけども、ここら辺をどのように考えていらっしゃって、これが科学的に、統計学なのか何か分からないんですけども、妥当性があるものなのかどうか。それから、皆さんから集めたこの意見を、今後どのように分析して、どのように策定に向けて反映させていくおつもりなのか、その3点についてお聞かせいただきたいと思います。

○萩島会長 はい。

○事務局（染井） 事務局でございます。

まず1点目の、前回12年前と取組の異なる点ということかと思いますがけれども、少し途中でも御説明さしあげましたけれども、まず、アンケートに関しましては、12年前は郵送でやっていたところを、今回はオンラインを中心にやってきたということで、かなり多くの御意見をいただけたのかなと思っております。

それから、先ほどお伝えしたようにちょうど世界水泳という機会もございました。そういった中で、外国から見ていただいた福岡について声を聞いたりですとか、あと一番大きなものとしては、今回、小中学生の参加がかなり大きいと思っております。今回初めての取組でございますけれども、1人1台のタブレット端末も、この10年間に整備されてまいりました。そういったものを活用したり、あるいは、ワークショップでも、テクノロジーの進歩を踏まえて、遠隔地の方、例えば離島から御参加いただいたりですとか、東京からだったり、あるいは、健康上の事情などで外出が難しいという方にも今回

いろいろ御参加いただきまして、そういったところは一つあるかなと思っています。

2点目の世代ごとの傾向ですけれども、ここで言いますと、おっしゃるとおり、40代が多いという特徴が今回はあったというふうに我々も考えてございます。通常の市が行うアンケートの場合は、統計学上は、サンプルになる母数が市の人口構成の縮図になるようなとり方でよく実施していますが、今回はそれ以上に、御意見をお持ちの方、意見を言いたいという方から聴取する場をつくることを最優先した結果、必ずしも年齢の構成と一致する回答のサンプルではございませんけれども、18歳未満という部分に関しては、前は20歳以上の方を対象としてアンケートをやっておりまして、そういう意味では、今回18歳未満の方から回答をもらえたことですか、あと、ワークショップにもかなり若い世代に参加いただいたことは、一つ今回の成果と言ってもいいのかなと思っています。

最後に、意見をどのように計画に反映していくかということについても、これから審議会にも御相談しながら検討していくことになると思っていますが、例えば、幸せな未来のために大切なことというところで、成果指標などの中でもそういったところを活用できるかなとか、自由記述で様々御意見いただいておりますので、そういった将来像を各分野の目指す姿に反映したりですか、あと、具体的な事業に関する御意見も多数いただいております、基本計画の大きな方向性というより、より具体の事業という部分は、より下位の分野別の計画などへの反映といったことも含めて、全庁的に検討してまいりたいと考えてございます。

以上でございます。

○萩島会長 ありがとうございます。

今日のアンケートは頭出しということで、さらに詳細に分析して、この審議会でも反映していくということですね。ありがとうございます。

では、じゃあ、一番手前、はい。

○委員 失礼いたします。

様々な御意見を統合していくのはすごく大変だなと思いながら、たくさんの意見を拝見させていただいていたんですが、こども未来サミット、20ページから御説明いただいたお話に関して、たまたま私、今年度にコーディネーターとして関わらせていただいたんですが、そのときに非常に実感したのは、学校現場でしっかりと生徒たち、児童たちと関わりながら会議への参加をサポートしてくださってる先生方のお力というのがすごい高いなと。そういう先生方のお力があるって、子どもたちがしっかりと成長していくということが基盤になるんだなということをすごく感じています。

そうした意味で、子どもたちの成長と、そうした先生方がどのように支援をしていくかということとはすごく重要だなと実感して、特に今回参加して下さった子どもたちというのは本当にすばらしかったなということですが、その中で、意見として、「自然にやさしく魅力あふれるまち」に一番高い関心が集まったというあたりは、学齢期を終えるぐらいまでは自分のまちをすごく見つめているんですけど、その後、例えば進学をしたりとか県外に出ていったときに戻ってきたい福岡市というふうに感じられるようなキャリア教育といったことがとても大事だなということを併せて感じたところです。

もう1点は、この先生方のお力がすごいなと思っていることとの兼ね合いで、不登校の子どもたちというのは、このアンケートにもなかなか声が反映できない、しにくいところです。先ほどLGBTのところでも、マイノリティーの意見もということで、そうしたことに触れてくださいました。これもそれにつながるとは思いますけども、不登校の子どもたちをどう支えていくのかということについては、なかなか情報が得にくかったり思いを酌むのが難しくはありますが、ただ、いろいろと支援をしたりしながら情報収集していきますと、学校の先生方からのサポートを得られた子どもさんのほうが復帰率は圧倒的に高いんです。そうすると、そうした先生方の関わりの質的な部分を高めることについても、例えば、こうした特例校をつくっている、それから、夜間中学を置いているということが今進んでいるというふうに並行して進めていくことが、より子どもたちのウェルビーイングを保つ、もしくは向上させることにもつながるとは思いますので、そうした教育現場の中での質的なものの高まりについても触れることができるといういいなということを、私の立場上、非常に実感しております。そうしたお力のある先生方がたくさんいらっしゃる福岡市だからこそ、さらなる向上をぜひお願いしたいな、そうしたことについてもこの中で取り上げていくことができるようになるといういいなと思っています。

以上です。

○萩島会長 ありがとうございます。

教育のプロからの非常に具体的な御示唆をいただいたかと思います。

そうしましたら、次、どうぞお願いします。

○委員 最初に市民アンケートから入られるというアプローチの仕方というのは非常に新鮮で、すばらしい取組だなと思います。ここに出てきたアンケートの内容というのは、市民の本当に生の自然の感覚なので非常に参考になりますけど、もう一つこれからそれぞれの施策に落としていく段階においては、実は、それぞれの分野ごとのデータを見ていったら、市民の生の感覚に合う部分もあるし、そうではない、実はデータを見たら違

うという部分もたくさん出てくると思います。しっかりと横にデータを置いていただいて、本当になすべきことは何かという形で進めていただけると、非常にいいものになるのではないかと思いますので、よろしくお願ひしたいとしたいと思います。

○萩島会長 ありがとうございます。

定量的と定性的なデータの両方を見るということですね。ありがとうございます。
ほかには。

○委員 均衡ある発展ということ、私、最初の御挨拶で申し上げて、都心部から農村、漁村まで含めて、福岡が未来もすばらしいまちであってほしいなと願うわけですけど、このアンケートの中で言いますと、2022年の日本の出生数が統計以来初めて80万人を割ったという危機的な状況になっている中で、子どもが健やかに育ち、安心して産み育てられる社会づくりという……。人口というのが一つ、今増えている状況ですけども、頭打ちになって、それでも、ある程度の水準を保っていくための努力は欠かせないと思っていて、その中で妊娠、出産の支援というのがあります。それについて、大変重要な視点なんだろうと思ひながら、私、このアンケートを見て、妊娠、出産に至らなかったとか、結婚が大抵の場合、直接の要因というか、その手前にあると思ひますが、そこに至らなかった方々の声なかなか拾えないのかなと感じました。

今日データ集とかもいただひいて、人口ピラミッドが4ページなんかにあたりしますが、20代、30代のところを見ると、トータルすると相変わらず女性が2万人ぐらい多いという状況が続いて、私は年齢が45になったんですが、ちょうど身近に「いつかお母さんをしたかったな」と思ひていたけど、なかなかうまくいかなかったな」とおっしゃる人がだんだん増えてきています。これは今から大きく盛り込んでいかなければいけないウェルビーイングみたいのところとも関わってくると思ひますけども、「こういう人生がいいな」「こういうふうになりたいな」という願ひがかなうまちにぜひなってほしいと、そうであってほしいという願ひもあります。

今、申し上げたような危機的な状況、静かな有事というふうにも言われますけど、そういう超低出生の社会で、このまちがどうなっていくのか。いただひている7ページのデータ表では、いよいよ自然減で、福岡市内では生まれてくる人よりも亡くなっていく人のほうが多い状況にとうとうなってしまっ、て、危機感が大事なんだろうなと。そういう危機感を持って次の計画の議論が進んでいくように、ぜひ願ひをしたいなというふうに思ひます。

長くなりましたけど、この自然減をこのままでよいというふうにしてしまうのか、若者が多いまちとして、ずっと地方から若い人を吸ひ上げてきて、本当に福岡がそういう

ことでいいのかということをしっかり問うて次の計画をつくっていく必要があると私は思っております。

すいません、意見も含めて申し上げました。ありがとうございます。

○萩島会長 ありがとうございます。まさに次の10年は違うというところとつながる話かと思えます。

ほかには御意見はいかがでしょうか。まだ発言されておられない方は……。じゃあ、こちらからお願いいたします。

○委員 経済振興について企業誘致の観点から御発言をさせていただきます。

資料の10ページにありますけれども、こちらの市民の方の主な意見としては、日本で最も新しいビジネスが集まる場所ですとか、3ポツ目の理系で勉強した子どもたちが働ける場所の充実といったかなりチャレンジングなことも含めて、10年間こういうのに取り組んだらどうかというエールをいただいていると思っております。冒頭に半導体の話をしましたけれども、今、製造基盤への投資が熊本を中心に九州全域へと拡大しておりますが、今後のプロセスといたしましては、設計・開発機能ですとか、いわゆるソフトウェアの部分の集積をどこにつくるのか。いわゆるシリコンパーク、先月、台湾のシリコンバレーと呼ばれる新竹にも参りましたけれども、あそこは産官学民が一体になってクオリティー・オブ・ライフと経済の成長の好循環をつくり出し、大学からたくさんの優秀な理系人材を地元の新竹に40年間輩出し続けています。そこで、TSMCなどいろんな企業のまずは工場、製造業のつくるほうから始まって、今では研究開発部門まで、40年間で世界を牛耳るようなメカニズムをつくっていったということで、エコシステムをいかにつくるのかというのが、我々の地域の特徴である支店経済からの脱却につながります。本社機能、研究開発機能をいかにかぶせていくのかということについては、もちろん東京から誘致してくるやり方もありますし、内製的にエコシステムの中で生み出すということは非常に重要だと思っております、ぜひこのような方針を次の10年の計画の中に落とし込んでいただけたらと思います。ありがとうございます。

○萩島会長 ありがとうございます。

ほかにはいかがでしょうか。オンラインで御参加の皆様も、御意見がありましたら挙手ボタンでお知らせいただければと思います。いかがですか。はい、お願いいたします。

○委員 私、いろんな会議にも出て意見もするんですけども、平成31年1月1日に障がい者差別解消条例ができて、もう4年以上たちます。その条例の内容について見直しを

行っていて、その中で、周知度というか、この条例が皆さん方にどれだけ浸透しているかという調査も行われました。その結果、その条例があることを知らない、内容も知らないと言われる方が7割おられました。非常に残念な結果だなと思っています。この条例がなぜ必要なのかを考えますと、そこを私たちというか、市民一人一人がしっかり受け止めてないといけないのかなと。

私は中途の障がいです。皆さん方は健常者として、今、生活されてあると思いますけれども、近年、いろんなことで障がいを負う可能性が十分あります。皆さん方も障がい者予備軍ということで私は話をしたりするんですけども、いつそうなるか分からない。そうであれば、なったときに、どういう環境であつたら暮らしやすいのかということ、しっかり考えていっていただければと思っています。

福岡市は、「みんながやさしい、みんなにやさしいユニバーサル都市・福岡」ということを掲げて取り組んでこられました。非常にいろんな面で私たちも外出できる機会が増えました。しやすくなりました。非常にありがたいです。そうすると、いろんな社会参加というか、そういうことも可能になりますし、社会の一員として就労できる機会も増えると考えていますので、ぜひそういうところもしっかり議論していただいて、いい方向に変わっていくと非常にありがたいと思いますので、よろしく願いいたします。

○萩島会長 ありがとうございます。

ほかにはいかがでしょうか。時間がそろそろ10分前ぐらいになるんですが、最後に特におきたい、言い残しているという方がいらっしゃれば。じゃあ、お願いいたします。

○委員 7ページのユニバーサルデザイン、健康、福祉の点です。男女共同参画協議会は婦人会が前身なんですけど、今、男女共同参画協議会に変わって、男性の委員さんたちも増えております。アンケートなので、男性でいろいろ仕事の悩みや家庭の悩みを抱えている方はなかなか表に出せないのです。たしか福岡市は18歳から49歳までの男性の自殺者も多いので、ぜひ項目に男性ということで、いろんな悩みを一人で抱えず、いろんな方と話ができるような環境づくりも今後大事なのかなと思って言わせていただきました。

あと個人的には、10ページの観光、レジャー施設の歴史の語り部をしているので、福岡城の天守閣を再建してほしい。これは市民の会でかなりずっとこの問題を出したような。何年か前に長州の密偵の方が書いた福岡城の絵が見つかったんですが、本物ではないらしいという判断があったんですが、私ドローンを飛ばしまして。今年大濠まつりのときに、たしか二の丸で、ドローンで上から撮影できる体験コーナーがあって、かなり人気があったみたいなので、今後、天守閣は再建できなくても、VRとかいろいろ。皆

さんが観光ということでお城に対して世界から皆さんが来られるので、この辺りも皆さんと色々な意見で、10年後よりよい方向にできたらと思っております。

○萩島会長 ありがとうございます。

そうしましたら、まだ御意見があるかと思いますが、時間がそろそろ迫っておりますので、本日の質疑というか、議論はここまでにしたいと思っております。

本日、新しい基本計画の策定に向けた最初の審議会ということでしたけども、非常に多様な御意見をいただいたと思っております。アンケートではカバーしきれない、皆さんの御経験、見識に基づく非常に有意義な御意見が聞けたと考えております。事務局では、本日の意見を踏まえて、次期の計画の素案の策定の際にうまく盛り込んでいただければと考えております。

それでは、本日の議題につきましては終了しまして、進行を事務局にお返しいたします。

5 開会

○事務局（高橋） 萩島会長、ありがとうございます。

閉会に当たりまして、総務企画局長の龍より御挨拶申し上げます。

○龍局長 総務企画局長の龍でございます。閉会に当たりまして一言御挨拶申し上げます。

委員の皆様におかれましては、大変御多忙の中、長時間にわたりお時間を頂戴しまして、心より御礼申し上げます。

今後、新たな基本計画の策定に向けて、事務局において素案の策定を進めてまいりますが、デジタル化や人々の価値観をはじめ、社会経済情勢はこれまでにないスピードで変化をしております。こうした変化を的確に捉えながら、本日御報告させていただきました多くの市民の皆様から頂戴した御意見、また、本日委員の皆様からいただいた御意見を踏まえ、内容の検討を進めてまいりたいと考えております。

本日は、委員の皆様顔合わせ、事務局からの御報告が中心となりましたが、来年度の審議会の場におきましては、計画の策定に向け本格的に検討を進めてまいりたいと考えております。委員の皆様には様々な御協力をお願いすることになると思っておりますが、どうぞよろしくお願いいたします。

以上をもちまして、閉会の挨拶とさせていただきます。本日はお忙しい中、誠にありがとうございました。

○事務局（高橋） 以上をもちまして総合計画審議会を閉会いたします。

お手元の手提げ袋は資料のお持ち帰りに御利用ください。また、資料の郵送を御希望される方は、近くの職員にお声かけいただければと思います。それでは、忘れ物ないようお気をつけてお帰りください。本日は誠にありがとうございました。

閉 会